

4年

国語

短歌と慣用句の意味

4年

組

名前

①①①②の短歌を五七五七七に分けて、()にひらがなで書きましょう。
また、その意味をア・イ・ウから選んで、□に記号を書きましょう。

(1) 金色のちひさき鳥のかたちして銀杏ちるなり夕日の岡に

ウ

() (ちひさきとりの) (かたちして) (いちようちるなり) (ゆうひのおかに)

(2) ゆく秋の大和の国の薬師寺の塔の上なる一ひらの雲

イ

(ゆくあきの) (やまとのくにの) (やくしじの) (とうのうえなる) (ひとひらのくも)

ア

晴れた空を見上げると、
いつも口笛をふきたく
なり、そこに金色の鳥が
飛んで来る。

イ

秋も終わりのころ大和の国
にある薬師寺。その塔を
見上げると、すんだ空に
ひとひらの雲がうかんでいる。

ウ

いちようの葉が、まるで
金色にかがやく小さな鳥の
ようにまいおりにいく。
夕日のさす岡の上に。

②①①⑤の慣用句と下の意味を——で結びましょう。

① 羽をのばす

進んで人のめんどろをみる。

② 底が浅い

強い言葉ではげましたり気合いを入れたりする。

③ 世話をやく

自由にのびのびとする。

④ はっぱをかける

人の言うことをうたがわず、そのまま信じる。

⑤ うのみにする

内容に深みがない。力量がそれほどではない。

二つ以上の言葉がくっついて、特別な意味になるのが慣用句ね。



この問題には
歯が立たない。



短歌は
五七五七七
でできて
いて季語は
なくても
いいよ。



ちひさきの
「ひ」は ()
には「い」で
書いてね。